



# 魅る 中山岩太

## モダニズムの光と影

NAKAYAMA IWATA:  
Reconstructing a Master Heritage

2008.12.13 | 土 | — 2009.2.8 | 日

東京都写真美術館 3階展示室  
[恵比寿ガーデンプレイス内]

TEL: 03-3280-0099

開館時間=10:00~18:00(木・金は20:00まで。入館は開館の30分前。但し1月2日、3日、4日は10:30~18:00開館)  
休館日=毎週月曜日(但し祝日は開館。翌火曜日は休館。12月29日(月)~1月1日(水・祝)は休館)  
観覧料=一般700(580)円・学生600(480)円・中学生・65歳以上500(400)円  
\*1) 内は20名以上の団体 \*東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 \*第3水曜日は65歳以上無料  
主催=東京都写真美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会  
協賛=ライオン、清水建設、大日本印刷  
特別協力=中山岩太の会、兵庫県立美術館、芦屋市立美術館、ラポテイク  
協力=フォト・ギャラリー・インターナショナル (上海からきた女) 1936年頃



〈福助足袋〉1930年



〈……〉1933年



〈イーブ〉1940年

# 魅る 中山岩太

## モダニズムの光と影

NAKAYAMA IWATA:  
Reconstructing a Master Heritage

中山岩太(1895~1949)は、日本の近代的写真表現を切り開いた重要な写真家です。1918年に東京美術学校(現・東京藝術大学)臨時写真科を第1回生として卒業し、農商務省の海外実業練習生として渡米します。21年にニューヨークに写真スタジオを開業した後パリに渡り「フェミナ」誌で嘱託写真家として活躍する一方、藤田嗣治やマン・レイなど先進的なアーティストたちと交流を深めます。27年に帰国。30年に「芦屋カメラクラブ」をハナヤ勲兵衛らと結成し、また32年には野島康三、木村伊兵衛らとともに写真雑誌「光画」を創刊し、モダニズムの感性にあふれた「新興写真」の旗手として日本の近代的写真表現をリードする存在となります。本展では、作家の手でプリントされた代表的な作品に加えて、中山岩太の会、芦屋市立美術館が中心になって調査・研究をしてきた「残されたガラス乾板」をもとに、銀塩印画紙による新しいプリントを展示します。新たに制作されたプリントは、中山岩太の華麗な写真表現をダイナミックに魅らすだけでなく、銀塩写真の危機が叫ばれる今日にあって、歴史的遺産ともいべきガラス乾板をいかに後世に伝えていくか、という問いかけに対する答えの一つにもなるはずです。



〈蝶(-)〉1941年



〈静物(ひまわり)〉1948年頃



〈デモンの祭典〉1948年

- 新春ギャラリートーク  
2009年1月2日[金]、3日[土] 16:00~
- 担当学芸員によるフロアレクチャー  
第2・4金曜日 16:00~  
\*本展覧会半券(当日押印)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。
- 講演会  
2009年1月25日[日] 18:30~20:30  
「中山岩太のニュープリントを制作して」  
比田井一良(ラポテイク)×金子隆一(当館専門調査員)  
会場=1階創作室  
\*当日10:00より本展覧会半券をお持ちの方に1階受付にて整理券を配布します。

アクセス  
JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分。  
東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館 3階展示室  
[恵比寿ガーデンプレイス内]  
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
TEL: 03-3280-0099 <http://www.syabi.com>

●中山岩太展 神戸でも開催(予定) 兵庫県立美術館 2009年11月中旬~2010年1月下旬